

緊急 注意喚起

会員各位

公益社団法人日本診療放射線技師会
会長 中澤 靖夫
医療安全対策委員長 廣木 昭則
公益社団法人 奈良県放射線技師会
会長 高嶋 敏光

RI 検査に係る事故防止策の徹底

11月20日、RI検査実施中に患者が検査台から落ち、動いている検査機器に上半身を挟まれ死亡する事故が発生しました。本会は診療放射線技師が直接関与している重大な事故と捉え、11月23日に医療安全緊急会議を開催し、事故調査団を発足、事故調査を行う方針です。

会員におかれましては、患者の安全を第一と考え、検査業務マニュアルの確認等、事故防止の徹底に努めていただきますようお願いいたします。

以下 毎日新聞 2015年11月20日 掲載から引用

愛知の病院：検査台から患者転落・・・機器に上半身挟まれ死亡

愛知県一宮市桜1の総合大雄会病院（今井秀院長）で20日、同県江南市の女性患者（74）が検査台から落ち、動いている検査機器に上半身を挟まれ死亡した。病院は県警一宮署に通報、同署が詳しい原因を調べている。死因は窒息死だった。

病院を経営する社会医療法人「大雄会」によると、女性は体の周囲を撮影機器が回転するガンマカメラで肺の検査を受けていた。胸、腹、脚を検査台に固定してしたが、開始直後に女性が動き出し、機器に巻き込まれた。男性技師がすぐに機械を止めたが、胸や腹を圧迫されており、約3時間後に亡くなった。病院側は院内に医療事故調査委員会を設置する方針。末広耕三・法人部長は「警察の捜査に全面的に協力する」とコメントした。【花岡洋二】